

2019 2/12

No.2084

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —

第40回 ヨコハマ映画祭

映画ファンのための熱いまつり



横浜の映画ファンが主催する映画の祭典「第40回ヨコハマ映画祭」の表彰式が3日、横浜市中区の関内ホールで開かれた。銀幕のスターが表彰台に登場し、映画ファンが晴れ姿を見守った。



政経かながわ

2019 2/12 No.2084

contents

視点・点描	3
ヨコハマ映画祭40回	
社 会	4
民法改正、消滅時効が「5年」に 保険金請求権などの例外も	
地域経済	6
経営努力で消費者と農家つなぐ 地域再生大賞の「陽気な母さん」	
デモクラシーの現場から 第3回	8
「多弱」野党の亥年展望	
くらし2019	10
外国人旅行者急増で「医療通訳」に注目	
企業最前線	12
拍車が掛かるホームドア導入 コスト・技術が普及の課題	
アジアの風	14
「ダンナさん」考現学	
NNAアジア経済リポート	15

事務局だより

◇2019年3月特別講演会

2019年3月4日(月)

受付開始午後3時

富士ゼロックス神奈川と共催
「第10回神奈川TOPセミナー」
ホテルニューグランド

▽基調講演

午後3時30分～4時40分

本館2階「レインボーボール
ルーム」

講師は経済ジャーナリストの
財部誠一さん

演題は「AI時代を勝ち残る企
業の条件」

▽特別講演

午後4時50分～5時50分

本館2階「レインボーボール
ルーム」

講師はJリーグチェアマンの
村井満さん

演題は「スポーツ経営現場の
組織と人のマネジメント」

▽神奈川情報交流会(懇親会)

午後6時～7時30分

タワー3階「ペリー来航の間」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会では
ホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設け
ました。新商品の紹介、地域貢
献活動、人事などジャンルを問わ
ずさまざまな情報を掲載します。
問い合わせは事務局 ☎045 (226)
2121。

視点 点描



ヨコハマ映画祭40回

映画を愛するサラリーマンらの

手弁当で運営されてきた日本映画の祭典「ヨコハマ映画祭」が今月、40回の節目を迎えた。カンヌやベルリンなどの国際映画祭はさておき、町おこしの一環として1980、90年代に次々と誕生した「地方の映画祭」が自治体の財政難などで消えていく中、「ヨコハマ映画祭」は独自の輝きと信頼を得て

いる。

なぜか。道のりは決して平坦ではなく、イベントに付きものの会場探しや資金繰りの苦労は絶えなかった。入場料とパンフレットの売り上げに頼る収入は赤字続き。スポンサーに名乗りを上げた企業もあったが、ファン目線と公平性を担保するために断った経緯もある。このブレない姿勢を貫い

たことが功を奏したといえよう。

業界や評論家を選ぶのではなく、映画館に足を運び、スクリーンで映画を見るファンの声をくんだ賞に意味を感じる映画人も多い。横浜国大の学生時代にボランティアとして同映画祭の草創期にかかわった阪本順治監督は、「主催者と観客、映画人のフェアな関係こそが、ヨコハマ映画祭が続くゆえん」と説く。

平成という時代に映画を取り巻く環境は著しく変わった。93（平成5）年に海老名にシネコン第1号が開業して以来、日本中はシネコンラッシュとなった。スクリーンの数はうなぎ上りだが、かつての名画座や街の映画館は次々と姿を消した。

今年1月末時点で県興行生活衛生同業組合に加盟する劇場は32、スクリーンは201とかつての倍以上。飽和状態のようにも見える

がまだ増える見込みという。

こうした劇場だけでなく、商業ベースに乗りにくい作品を応援するコミュニティシネマや、図書館で本を読むように気軽に映画に親しむためのシネマカフェなども登場。オンデマンドによる配信など映画を楽しむ環境も多様化している。

劇場に行かなくても最新作から過去の名作まで、好きな映画を手軽に見られる今、映画祭というだけでは集客を見込むのは難しい。しかし、ヨコハマ映画祭は観客と主催者、そして映画人が情熱を共有し、分かち合う場となり、人の心をつかんだ。第1回からキャッチフレーズとして掲げる「映画ファンのための熱いまつり」そのままに、情熱を絶やすことなく50回に向けて歩みを進めてほしい。

（神奈川新聞社文化部長

高田 久美子）